

— 令和 4 年度 —

高知県公立高等学校入学者選抜における
学力検査の結果分析

令和 4 年 6 月

高 知 県 教 育 委 員 会

目 次

令和4年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ	1
I 令和4年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要	2
II 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の実施結果	6
1 学力検査出題の方針	
2 学力検査結果の全体的な状況	
III 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況	10
国語	10 - 11
社会	12 - 13
数学	14 - 16
理科	17 - 19
英語	20 - 21

令和4年度高知県公立高等学校入学者選抜における学力検査の結果分析のまとめ

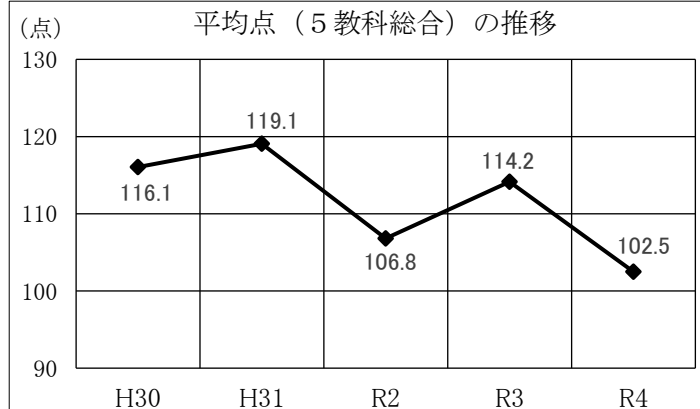
(A日程及び連携型中高一貫教育校に係る特別選抜)

【Ⅰ】入学者選抜の概要

受検者数・合格率の推移

	受検者数	合格率
平成30年度	4,124名	92.1%
平成31年度	4,010名	93.0%
令和2年度	3,836名	92.4%
令和3年度	3,632名	92.4%
令和4年度	3,696名	91.1%

【Ⅱ】学力検査の実施結果



【Ⅲ】学力検査の教科別状況

結果の分析	
総合	5教科総合の平均点は102.5点で、昨年度より11.7点下がった。200点以上の受検者数は約半分に減少し、74点以下の受検者数は1.5倍に増加した。各教科ともに、基礎的・基本的な知識・技能は一定程度定着しているが、知識を活用して思考・判断・表現する力については課題がある。特に、実生活における課題解決の場面を想定した問いや、事象や概念を的確に説明したり、与えられた条件のもとで他者に分かりやすく伝えたりする力をみる記述式の問題等は正答率が低い。
国語	平均点は22.4点で、昨年度より0.2点下がった。漢字の読みや敬語については一定の力が認められるが、漢字の書きや文法の基礎的な事項についての習熟が十分とは言えない。また、文章の内容を整理しながら正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。
社会	平均点は23.4点で、昨年度より1.5点下がった。基本的事項については一定の定着がうかがえるが、全分野を通して、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて総合的に思考・判断・表現する力等に課題がある。また、歴史的分野では、各時代の特色や歴史的事象のつながりを捉える力が十分ではない。
数学	平均点は16.2点で、昨年度より4.9点下がった。基礎的・基本的事項については一定の力が付いていると思われるが、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力は十分とは言えない。また、関数と図形を関連付けて考察する問題や、図形を数学的な推論に基づいて考察し表現する問題等、思考・判断・表現する力を問う問題に課題がある。
理科	平均点は19.9点で、昨年度より2.1点下がった。基礎的・基本的な科学用語ならびに観察・実験の技能の習得については、第2分野では一定の定着が見られるものの、第1分野については課題が残る。また、科学用語や科学的事象を言葉により説明したり、観測・実験結果を図やグラフを用いて表現したりする力や、科学的な探究活動により結論を導く力を伸ばす必要がある。
英語	平均点は20.6点で、昨年度より3.0点下がった。聞いたり読んだりしたことの概要や要点を捉えることについては一定の力が認められる。身近なことや社会的なことに対して自分の考えを英語で書いて伝える問題では、自分の考えを伝えようとしているものの、基本的な文法事項等の定着や、場面に応じて適切に表現することについては課題がある。

【Ⅳ】今後の学習指導の重点項目

課題を発見し解決する学習活動を通して、各教科等で習得した基礎的・基本的な知識・技能を、自身の体験や実社会のできごとなどと結び付けながら活用する能力と、思考力・判断力・表現力を育む。

I 令和4年度高知県公立高等学校入学者選抜の概要

1 全体

	入学定員	合格者総数
全 日 制	5,090	3,677
多 部 制	200	96
定 時 制	560	45
合 計	5,850	3,818

(併設中学校からの進学者を含む。)

○定員充足率 (%)	前年比 (ポイント)	
全日制の課程	72.2	+0.4
多部制の課程	48.0	+5.0
定時制の課程	8.0	+0.9

2 (1)A日程

	A日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	5,090	3,492	3,292
多 部 制	120	87	74
合 計	5,210	3,579	3,366

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	94.3	+2.0	全日制の課程	200	-67
多部制の課程	85.1	-4.6	多部制の課程	13	+5

(2)連携型特別選抜

	受検者数	合格者数
全 日 制	117	115

※連携型中高一貫教育校に係る特別選抜の募集定員は、入学定員内とし、特に定めない。

3 B日程

	B日程定員	受検者数	合格者数
全 日 制	1,590	198	170
多 部 制	128	30	21
定 時 制	560	35	32
合 計	2,278	263	223

○合格率 (%)	前年比 (ポイント)		○不合格者数 (人)	前年比 (人)	
全日制の課程	85.9	+2.1	全日制の課程	28	-3
多部制の課程	70.0	-10.0	多部制の課程	9	+6
定時制の課程	91.4	-2.5	定時制の課程	3	+1

4 C日程

	C日程定員	受検者数	合格者数
多 部 制	68	5	1
定 時 制	528	17	13
合 計	596	22	14

5 定員内不合格(全日制のみ)

	定員内不合格者数		
	A日程	連携型特別選抜	B日程
令和4年度	109	2	28

令和4年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

No. 1 全日制

学校名	学科(科)名	入 学 定 員	A日程			B日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数				合 格 者 数
室戸	総合	80	35	35	35	45	1	1	0	35	45	35
安芸	普通	120 ⁽⁶⁸⁾	27	27	26	42	0	0	0	78	42	78
安芸桜ヶ丘	工業(機土) 機械	20	10	10	10	10	0	0	0	10	10	10
	工業 土木	20	6	6	5	15	0	0	0	5	15	5
	商業(ビジネス)	40	15	15	15	25	2	1	1	16	24	16
城山	普通	80	14	14	11	69	12	11	9	20	60	20
山田	普通	80	75	75	64	16	11	8	7	71	9	71
	探究(グローバル)	80	16	15	11	69	3	2	1	12	68	12
	商業(ビ探)	40	27	27	24	16	9	6	7	31	9	31
嶺北	普通	80	12	12	11	39	1	1	1	42	38	42
高知農業	農業(農総)	40	45	44	40	なし				40	0	40
	農業(畜総)	40	23	23	19	21	3	2	1	20	20	20
	農業(森総)	40	14	14	13	27	3	3	3	16	24	16
	農業(環土)	40	21	21	20	20	2	2	2	22	18	22
	農業(食ビ)	40	31	30	29	11	4	0	0	29	11	29
高知東工業	農業(生総)	40	36	36	36	4	0	0	0	36	4	36
	工業(機械)	40	28	27	26	14	3	3	3	29	11	29
	工業(機械系)	40	11	11	9	31	4	4	4	13	27	13
	工業(電子)	40	24	24	22	18	5	5	5	27	13	27
岡豊	工業(電機)	40	18	18	17	23	2	1	1	18	22	18
	普通	240	258	258	240	なし				240	0	240
	普通(芸術コース)	40	30	30	28	12	3	3	3	31	9	31
高知東	普通(体育コース)	40	31	31	32	8	4	4	4	36	4	36
	総合	200	263	257	200	なし				200	0	200
高知工業	看護(看護)	30	36	36	30	なし				30	0	30
	工業(機械)	40	33	31	36	4	3	2	2	38	2	38
	工業(電気)	40	45	41	40	なし				40	0	40
	工業(情技)	40	63	57	40	なし				40	0	40
	工業(工化)	40	26	24	33	9	1	1	1	34	6	34
	工業(土木)	40	40	39	39	1	1	1	1	40	0	40
	工業(建築)	40	44	42	40	なし				40	0	40
工業(総デ)	40	45	45	40	なし				40	0	40	
高知追手前	普通	280	238	231	230	51	2	2	1	231	49	231
	吾北	40	12	12	11	29	3	3	1	12	28	12
高知丸の内	普通	140	181	179	141	なし				141	0	141
	チャレンジA	10	9	8	6					6	4	6
	音楽(音楽)	30	11	11	14	16	2	2	2	16	14	16
高知小津	普通	240	272	265	241	なし				241	0	241
	理数(理数)	40	36	34	36	5	4	3	3	39	1	39
高知国際	普通 ⁽¹⁵⁵⁾	200	161	161	155	なし				200	0	200
	国際(グローバル) 探究	80 ⁽²⁴⁾	15	15	15	9	0	0	0	71	9	70
	D P	[20] ^(若干名)	[2]	[2]	[0]	[若干名]	[0]	[0]	[0]	[0]		
伊野商業	商業(キャリア)	160	99	98	85	76	41	28	26	111	49	111
春野	総合	160	129	128	121	40	24	20	20	141	19	141
高岡	普通	80	27	25	19	61	14	13	10	29	51	29
高知海洋	水産(海洋)	80	32	31	28	52	13	13	8	36	44	36
	船舶職員養成課程	[10]	[11]	[11]	[1]	[9]	[0]	[0]	[0]	[1]	[9]	[1]
須崎総合	普通	120	51	51	50	70	9	8	8	58	62	58
	工業(機械系) 機械	20	19	19	17	3	0	0	0	17	3	17
	工業 造船	20	4	4	3	17	1	1	1	4	16	4
	工業(電情系) 電気	20	13	12	9	11	1	1	1	10	10	10
	工業 電情	20	5	5	4	16	0	0	0	4	16	4
	工業(シ工系) 機制	20	3	3	3	17	0	0	0	3	17	3
	工業 住環	20	9	9	9	11	0	0	0	9	11	9
佐川	普通	80	39	38	36	44	7	7	7	43	37	43
窪川	普通	80	38	37	31	49	10	10	6	37	43	37
樽原	普通	80	13	13	11	45	5	5	4	39	41	39
四万十	普通	40	6	6	6	21	1	1	1	20	20	19
	普通(自環コース)	40	5	4	3	34	1	1	0	6	34	6

- (注1) 安芸、高知国際、中村の()内の数字は、A日程の募集定員を示したものである。
- (注2) 高知海洋高校船舶職員養成課程の[]は内数。
- (注3) 嶺北、樽原、四万十、清水の合格者総数には、連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者数を含む。
- (注4) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。
- (注5) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

No. 2 全日制

学 校 名	学 科 (科) 名	入 学 定 員	A日程			B日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数	
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数				合 格 者 数
大 方	普 通	80	23	23	21	59	4	4	2	23	57	23
幡多農業	農 業 (園シス)	40	26	26	26	14	0	0	0	26	14	26
	農 業 (アグリ)	40	20	20	17	23	0	0	0	17	23	17
	農 業 (グリーン)	40	9	9	7	33	1	1	1	8	32	8
	農 業 (コーディネート)	40	23	23	23	17	0	0	0	23	17	23
中 村	普 通	200 (138)	95	93	91	47	1	1	1	154	46	154
西土佐	普 通	40	7	7	4	36	3	3	3	7	33	7
宿毛工業	工 業 (機械) 機械	20	16	16	15	5	1	1	1	16	4	16
	工 業 自転車	20	6	6	6	14	1	1	1	7	13	7
	工 業 (建設) 土木	20	25	24	21	なし				21	0	21
	工 業 建築	20	15	14	15	5	0	0	0	15	5	15
	工 業 (電気)	40	9	9	9	31	0	0	0	9	31	9
	工 業 (情技)	40	41	41	40	なし				40	0	40
宿 毛	総 合	120	77	77	72	48	6	6	5	77	43	77
清 水	普 通	80	3	3	3	32	2	2	1	49	31	49
県 立 計		4810 (4595)	3224	3165	2895	1590	234	198	170	3395	1418	3393

高知商業	商 業 (総合マ)	140	167	164	140	なし				140	0	140
	商 業 (社会マ)	70	83	83	70	なし				70	0	70
	商 業 (情報マ)	35	41	40	35	なし				35	0	35
	商 業 (スポマ)	35	40	40	37	なし				37	0	37
市 立 計		280	331	327	282	0	0	0	0	282	0	282

合 計		5090 (4875)	3555	3492	3177	1590	234	198	170	3677	1418	3675
-----	--	-------------	------	------	------	------	-----	-----	-----	------	------	------

(注1) 安芸、高知国際、中村の合格者総数には、併設中学校からの進学者数を含む。

(注2) A日程合格者数には、A日程の追検査による合格者を含む。

令和4年度 連携型中高一貫教育校に係る特別選抜合格者等の状況(学校別)

学 校 名	学 科 (科) 名	入 学 定 員	特別選抜			
			特 別 選 抜 定 員	志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数
嶺 北	普 通	80	入学定員内	31	31	30
樽 原	普 通	80	入学定員内	24	24	24
四 万 十	普 通	40	入学定員内	13	13	13
	普 通 (自環コース)	40	入学定員内	3	3	3
清 水	普 通	80	入学定員内	47	46	45
合 計		320		118	117	115

令和4年度 高知県公立高等学校入学者選抜合格者等の状況（学校別）

多部制単位制

学校名	学科名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]		
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数				受 検 者 数	合 格 者 数
中 芸	普通（昼間）	40	15	13	11	30	4	4	4				15	25	15	
	普通（夜間）	40 [4]				40 [4]	5 [0]	4 [0]	3 [0]	37	3	3	1	4	36	4 [0]
高知北	普通（昼間）	80	82	74	63	18	13	11	5				68	12	68	
	普通（夜間）	40 [4]				40 [4]	11 [1]	11 [1]	9 [1]	31	2	2	0	9	31	9 [1]
合 計		200 [8]	97	87	74	128 [8]	33 [1]	30 [1]	21 [1]	68	5	5	1	96	104	96 [1]

(注1) 成人の [] は内数

定時制

学校名	学科(科)名	入 学 定 員 [成人]	A日程			B日程			C日程			合 格 者 総 数	空 定 員	入 学 許 可 者 数 [成人]		
			志 願 者 数	受 検 者 数	合 格 者 数	B 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数 [成人]	受 検 者 数 [成人]	合 格 者 数 [成人]	C 日 程 定 員 [成人]	志 願 者 数				受 検 者 数	合 格 者 数
室 戸	普通	40 [4]				40 [4]	0 [0]	0 [0]	0 [0]	40	0	0	0	0	40	0 [0]
山 田	普通	40 [4]				40 [4]	8 [0]	8 [0]	7 [0]	33	2	2	1	8	32	8 [0]
高知東工業	工業（機械）	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]
高知工業	工業（機械）	40 [20]				40 [20]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	0	0	0	2	38	2 [0]
	工業（電気）	40 [20]				40 [20]	2 [1]	2 [1]	2 [1]	38	0	0	0	2	38	2 [1]
	工業（土木）	40 [20]				40 [20]	2 [0]	2 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]
	工業（建築）	40 [20]				40 [20]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	1	1	1	2	38	2 [0]
高 岡	普通	40 [8]				40 [8]	1 [1]	1 [1]	1 [1]	39	3	3	1	2	38	2 [1]
須崎総合	普通	40 [4]				40 [4]	4 [0]	4 [0]	4 [0]	36	1	1	1	5	35	5 [0]
佐 川	普通	40 [8]				40 [8]	3 [0]	3 [0]	3 [0]	37	0	0	0	3	37	3 [0]
大 方	普通	40 [4]				40 [4]	1 [0]	1 [0]	1 [0]	39	2	2	2	3	37	3 [0]
宿 毛	普通	40 [4]				40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	0	0	0	2	38	2 [0]
清 水	普通	40 [4]				40 [4]	6 [0]	6 [0]	5 [0]	35	1	1	0	5	35	5 [0]
合 計		520 [124]				520 [124]	33 [2]	33 [2]	30 [2]	490	12	12	8	38	482	38 [2]
高知商業	商業（商業）	40 [4]				40 [4]	2 [0]	2 [0]	2 [0]	38	5	5	5	7	33	7 [0]
合 計		560 [128]				560 [128]	35 [2]	35 [2]	32 [2]	528	17	17	13	45	515	45 [2]

(注1) 成人の [] は内数

Ⅱ 学力検査(A日程及び連携型特別選抜)の実施結果

1 学力検査出題の方針

中学校学習指導要領（平成29年3月告示）にそって、基礎的・基本的な知識・技能の定着と、学習や実生活の場面において、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の力をみるものとした。

- 1 中学校における日常の学習活動に基づく内容とした。
- 2 各教科においては、一部の領域に偏らないようにした。
- 3 検査時間等を考慮し、適切な問題量とした。

2 学力検査結果の全体的な状況

(1) 学力検査受検者数等(令和4年3月3日実施分)

学力検査受検者数		
A日程学力検査受検者数	連携型中高一貫教育校に係る特別選抜受検者数	計
3,579人 (3,554人)	117人 (78人)	3,696人 (3,632人)

(注) ()内は令和3年度の受検者数である。

(2) 平均点(各教科とも50点満点)

教科	国語	社会	数学	理科	英語	総合
平均点	22.4 (22.6)	23.4 (24.9)	16.2 (21.1)	19.9 (22.0)	20.6 (23.6)	102.5 (114.2)

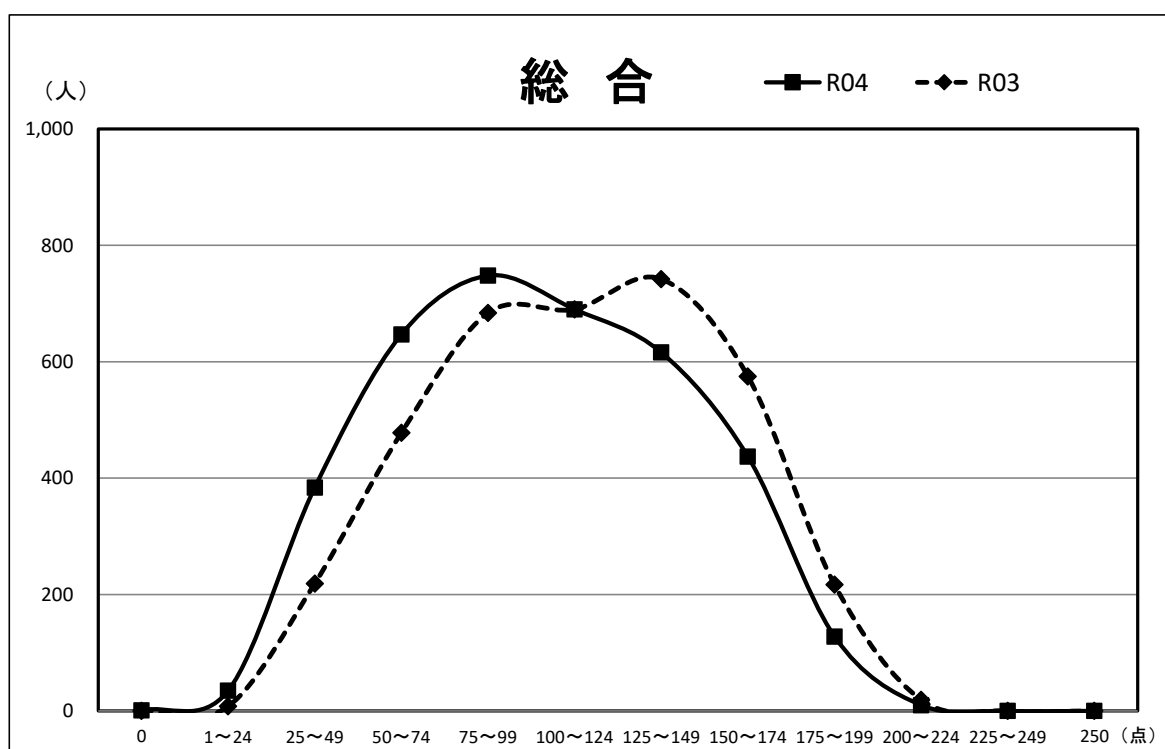
(注) ()内は令和3年度の値である。

(3)個人別総合得点度数分布表(250点満点)

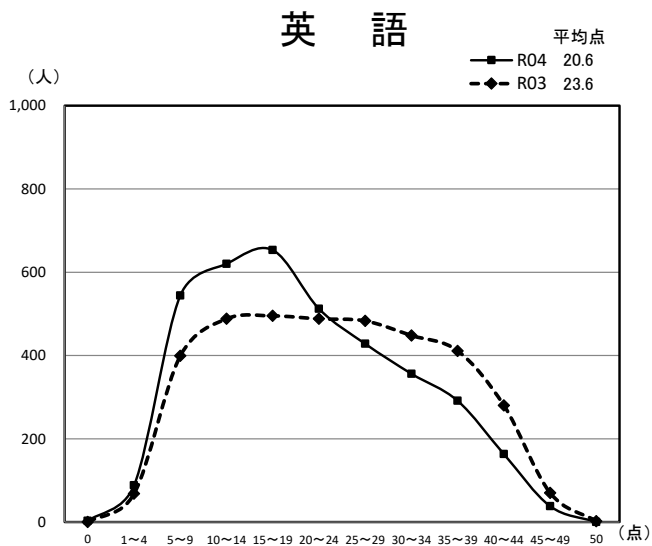
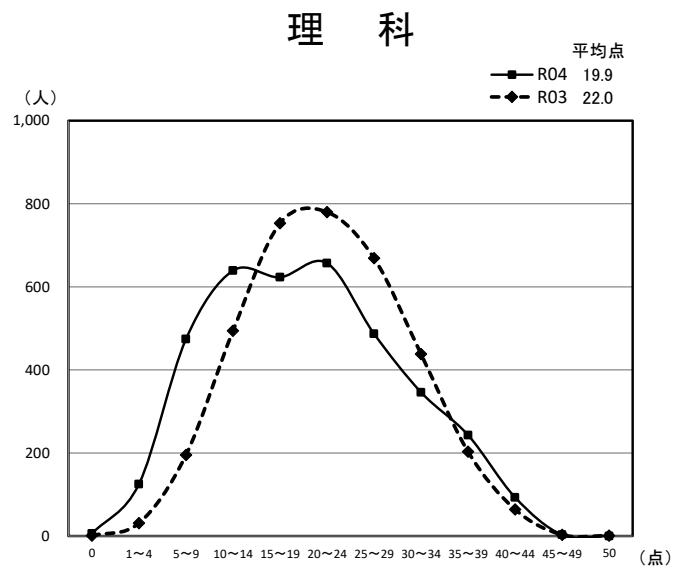
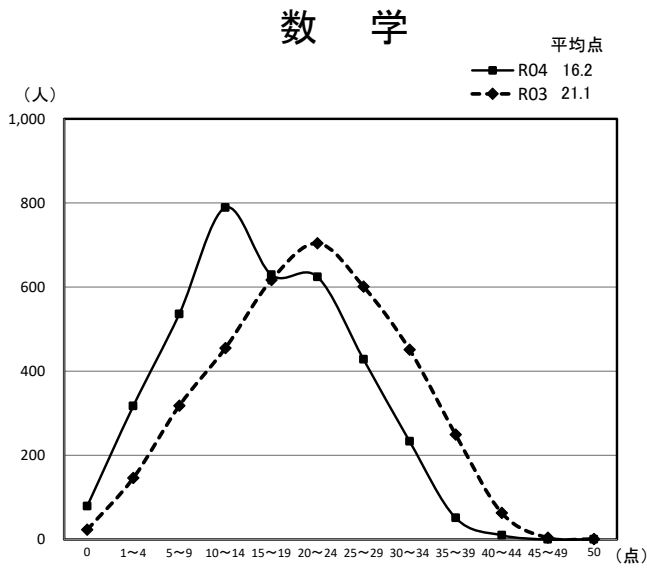
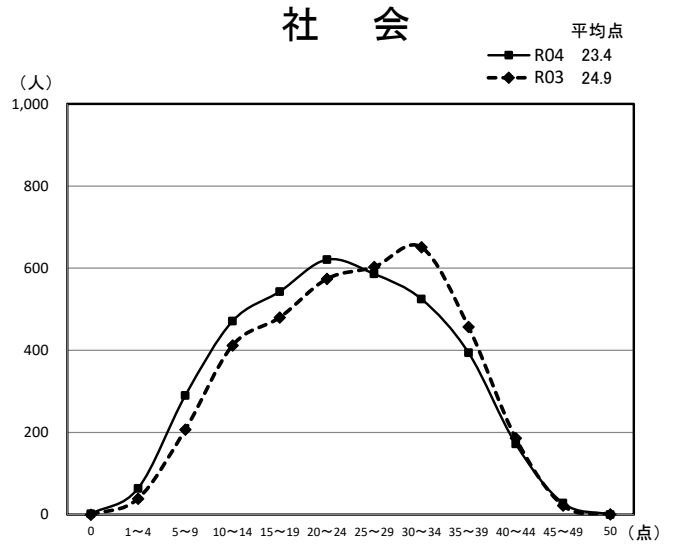
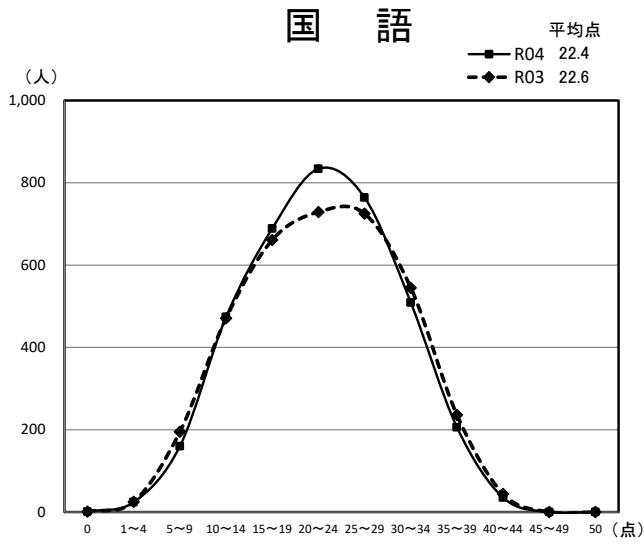
得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数	得点階級	度数
0～4	1 (0)	65～69	144 (84)	130～134	122 (152)	190～194	11 (30)
5～9	0 (0)	70～74	141 (105)	135～139	124 (142)	195～199	12 (26)
10～14	1 (0)	75～79	143 (122)	140～144	110 (136)	200～204	7 (8)
15～19	11 (1)	80～84	160 (134)	145～149	120 (179)	205～209	1 (5)
20～24	23 (7)	85～89	156 (136)	150～154	102 (124)	210～214	1 (5)
25～29	33 (16)	90～94	145 (145)	155～159	104 (119)	215～219	1 (0)
30～34	46 (43)	95～99	144 (147)	160～164	82 (119)	220～224	0 (1)
35～39	84 (45)	100～104	136 (138)	165～169	93 (116)	225～229	0 (0)
40～44	95 (48)	105～109	138 (146)	170～174	56 (97)	230～234	0 (0)
45～49	126 (67)	110～114	136 (136)	175～179	58 (70)	235～239	0 (0)
50～54	99 (79)	115～119	141 (119)	180～184	36 (58)	240～244	0 (0)
55～59	119 (95)	120～124	139 (151)	185～189	11 (33)	245～250	0 (0)
60～64	144 (115)	125～129	140 (133)				

(注) ()内は令和3年度の値である。

平均点 102.5 (昨年度114.2)



(4)教科別得点度数グラフ



(5) 過年度比較

平均点の推移(各教科とも50点満点)

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	総 合
平成30年度	20.4	24.4	21.8	23.7	25.8	116.1
平成31年度	22.6	25.1	18.5	25.7	27.1	119.1
令和2年度	20.4	19.4	19.0	23.3	24.7	106.8
令和3年度	22.6	24.9	21.1	22.0	23.6	114.2
令和4年度	22.4	23.4	16.2	19.9	20.6	102.5
前年比増減	-0.2	-1.5	-4.9	-2.1	-3.0	-11.7

満点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成30年度	0	4	2	7	3	16
平成31年度	0	5	0	1	6	12
令和2年度	0	0	0	0	1	1
令和3年度	0	1	1	1	2	5
令和4年度	0	0	0	0	0	0
前年比増減	±0	-1	-1	-1	-2	-5

0点の人数

	国 語	社 会	数 学	理 科	英 語	合 計
平成30年度	2	0	41	3	3	49
平成31年度	2	2	56	2	1	63
令和2年度	6	3	49	0	0	58
令和3年度	1	0	23	1	0	25
令和4年度	1	2	79	6	3	91
前年比増減	±0	+2	+56	+5	+3	+66

250点満点で200点以上と74点以下の人数

()内は%

	200点以上	74点以下
平成30年度	92 (2.23)	852 (20.66)
平成31年度	51 (1.27)	699 (17.43)
令和2年度	18 (0.47)	967 (25.21)
令和3年度	19 (0.52)	705 (19.41)
令和4年度	10 (0.27)	1,067 (28.87)
前年比増減	-9	+362

※ 令和3年度までは平成20年度告示、令和4年度から平成29年度告示の中学校学習指導要領に基づく出題。

Ⅲ 学力検査（A日程及び連携型特別選抜）の教科別状況

国語

1 出題のねらい

言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能と、国語で正確に理解し適切に表現する思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化については、漢字の読み書き、書写、敬語、表現の技法、文法の基礎的な事項、情報と情報との関係や情報の整理に関する事項、伝統的な言語文化に関する事項などについての力をみるものとした。
- (2) 「書くこと」については、文章の展開に即して内容を捉えたり、文章の内容について自分の考えをもったりしたうえで、目的や必要に応じて適切に書き表す力をみるものとした。
- (3) 「読むこと」については、文脈の中における語句の意味を的確に捉えるとともに、文章の構成や論理の展開、表現の仕方などに注意しながら、内容を正確に理解する力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は 22.4 点で、昨年度より 0.2 点下がった。漢字の読みや敬語については一定の力が認められるが、漢字の書きや文法の基礎的な事項についての習熟が十分とは言えない。また、文章の内容を整理しながら正確に読み取り、条件に合わせて適切に書き表すことについて課題がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
平均点	22.4	22.6	20.4	22.6	20.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
言葉の特徴や使い方・ 漢字・書写・表現の技法	57.3	56.6	49.9	56.9	53.5
現代文	30.8	24.1	26.4	34.4	23.8
古典	51.6	44.4	44.6	44.2	38.8

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント（【 】は該当問題番号）

☞① 知識の概念的な理解を促すこと。【 (五)4, 5】

二つの俳句の季語を入れかえた際に印象が変化することについて、適切に記述できている解答が少ない。また、同じ季節を詠んでいる俳句を選択する問題では、全体の約44%が誤答であった。俳句を読み解くためには、季語を事実的な知識としてのみ習得させるのではなく、知識の概念的な理解を促す指導が必要である。

☞② 何が問われているかを正しく把握する力を付けさせること。【 (一)】

二つの内容を説明することが求められている問題で、一つの内容についてしか説明していない解答が多かった。問いで提示されている条件を確実に把握できる力を身に付けさせたい。

☞③ 内容を的確に捉え、目的に応じて読む力を付けさせること。【 (三), (一), (二)】

筆者の考えを読み取り、問いの条件に合わせて説明する問題の正答率が低い。文章を読む際に、文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見などを読み分けて内容を把握すること、読み取った内容を目的に応じて整理して説明することなどについても、一層の指導が必要である。

問 題		正 答	正答率	誤答率	無答率	
一	(一)	1	よくよう	67.1	25.8	7.1
		2	わ (<)	97.4	2.3	0.3
	(二)	1	円熟	12.2	74.2	13.6
		2	築 (<)	70.5	21.2	8.3
	(三)		まだれ	43.9	43.9	12.2
	(四)	1	ウ	54.6	44.9	0.5
		2	(例) いただいた	81.3	17.7	1.0
	(五)	1	イ	57.1	42.4	0.5
		2	ウ	35.6	63.9	0.5
		3	喜び	61.3	33.6	5.1
		4	(例) それぞれの句の印象が大きく変わってしまう	52.3	33.8	5.6
部分点 8.3						
5	ア	54.6	44.4	1.0		
二	(一)	イ	57.6	41.9	0.5	
	(二)	エ	57.0	42.7	0.3	
	(三)	(例) 対話によって成果を得ようとするのではなく、対話を自分が結局は大切なことを分かっていないのだということを自覚させてくれる契機だと考えて、対話を行うこと。	8.6	52.5	9.1	
			部分点 29.8			
(四)	ウ	59.3	39.9	0.8		
三	(一)	(例) 日本の住所は、ほとんどの通りに名前がなくそこへ行く手段になりにくいいため、日本人は物事をイメージにして理解したり伝えたりすることが得意なのではないかということ。	1.0	68.2	5.3	
			部分点 25.5			
	(二)	(例) 筆者は、「現在の地球」は地名が無意味化し、どこにいても同じという状況になっていると捉えている。私も遠くの人と画面を通して話した経験があり、この状況は便利だが、直接対面する価値も忘れてたくないと思う。	1.3	60.3	17.7	
			部分点 20.7			
四	(一)	いわく	92.9	5.8	1.3	
	(二)	つく人も無くて十二時に鳴る事	22.5	48.7	28.8	
	(三)	1 イ 2 ウ	47.2	50.8	2.0	
	(四)	エ	43.9	54.1	2.0	

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した396人分の答案を対象として算出した。

社会

1 出題のねらい

「地理的分野」、「歴史的分野」、「公民的分野」から均等に出題し、我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関する理解と、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「地理的分野」については、地理的事象を地図や資料との関係において出題し、世界と日本の地域構成、世界や日本の様々な地域に関する自然環境や産業などからみた地域的特色などについて問うものとした。
- (2) 「歴史的分野」については、歴史的事象を年表や資料との関係において出題し、我が国の古代から近現代までの各時代の特色と移り変わり、我が国と世界の歴史上の関連などについて問うものとした。
- (3) 「公民的分野」については、現代の社会的事象を資料との関係において出題し、現代社会の特色、政治のしくみ、経済のしくみ、国際社会の諸課題などについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は 23.4 点で、昨年度より 1.5 点下がった。基本的事項については一定の定着がうかがえるが、全分野を通して、資料から情報を読み取り、既習事項と関連付けて総合的に思考・判断・表現する力等に課題がある。また、歴史的分野では、各時代の特色や歴史的事象のつながりを捉える力が十分ではない。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
平均点	23.4	24.9	19.4	25.1	24.4

(2) 正答率の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
地理的分野	54.3	46.2	40.1	48.6	58.1
歴史的分野	49.7	43.3	34.9	42.4	50.5
公民的分野	47.4	61.6	50.9	55.4	46.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

☞① 資料等を活用して思考・判断・表現する力を付けさせること。【1】2, 【3】2など

資料から読み取ったことと、すでに習得している知識とを関連付けて、思考・判断し、表現することに課題がある。複数の資料から情報を読み取り、読み取った情報とすでに習得している知識とを結び付けて表現する活動の充実を図ることが大切である。その際には、表現する力を養うために、教科書をもとに社会的事象の内容を適切に表現する活動にも取り組ませたい。また、誤答の中には、問われたことに対して適切に解答できていないものも見られた。問いをよく読み、設問の条件を満たして解答できるように指導を行うことも重要である。

☞② 各時代の特色や歴史的事象のつながりを捉える力を付けさせること。【3】4

各時代の特色や歴史的事象のつながりを捉える力が十分でない。歴史的事象を個別に理解するだけでなく、他の事象との関連性に注意しながら理解したり、各時代を大観して、時代の特色を多面的に考察したりする活動の充実を図ることが大切である。

問 題	正 答	正答率	誤答率	無答率		
1	(1)	ウ	67.9	31.3	0.8	
	(2)	A ア C エ	48.0	51.5	0.5	
	(3)	ア	61.1	37.9	1.0	
	2	(例) 高知県では、温暖な気候を生かした促成栽培などによって1年を通して収穫でき、他の都道府県の出荷量が少なく、価格が高い時期に出荷できるから。	26.5	57.6	4.0	
部分点 11.9						
3	ウ	78.0	21.5	0.5		
2	1	エ	72.2	27.3	0.5	
	2	(1)	インフレーション	85.9	12.6	8.1
		(2)	(例) 日本銀行は、国債を売る。	24.0	65.6	
	部分点 2.3					
3	イ	64.2	34.8	1.0		
3	1	五箇条の御誓文	27.8	53.0	19.2	
	2	(例) 綿糸の国内生産量が増えると、綿糸の輸入割合が減少し、綿糸の原料となる綿花の輸入割合が増加した。	15.9	68.9	10.4	
	部分点 4.8					
	3	ア	83.3	16.4	0.3	
	4	エ → イ → ウ → ア	10.6	88.9	0.5	
5	ウ	77.8	21.7	0.5		
4	1	(1)	A ア B ウ C イ	67.4	32.1	0.5
		(2)	㊦	46.7	52.5	0.8
		(3)	シリコンバレー	56.0	36.9	7.1
	2	ウ	72.2	26.8	1.0	
3	(例) 白人以外の移民を制限する政策が廃止される前の1961年は、ヨーロッパ州からの移民の割合が大きかったが、政策が廃止された後の2016年は、アジア州などからの移民の割合が大きくなった。	18.9	69.8	8.8		
部分点 2.5						
5	1	(1)	A 3人 B 2人 C 1人 D 1人	26.3	66.6	7.1
		(2)	連立政権	32.3	51.0	16.7
		(3)	イ	43.4	55.6	1.0
	2	ウ	38.9	59.8	1.3	
3	(例) 高齢者は、他の年代に比べてスマートフォンやタブレットの利用率が低く、インターネットから得られる情報量が少ない。	39.1	50.7	5.1		
部分点 5.1						
6	1	ウ	39.1	59.9	1.0	
	2	大宝律令	74.0	15.9	10.1	
	3	エ	61.6	37.4	1.0	
	4	ア	77.3	21.7	1.0	
	5	(例) 大阪につくられた諸藩の蔵屋敷に、年貢米や特産物が運び込まれて、取り引きされたから。	29.8	52.3	9.6	
部分点 8.3						

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した396人分の答案を対象として算出した。

数学

1 出題のねらい

「数と式」、「図形」、「関数」、「データの活用」から出題し、数量や図形などについての基礎的な概念や原理・法則などの理解と、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能、数学を活用して事象を論理的に考察したり、数量や図形などの性質を見だし統合的・発展的に考察したり、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したりする力をみることをねらいとした。

- (1) 「数と式」では、数の概念についての理解の程度、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力をみるものとした。
- (2) 「図形」では、図形の内容、図形の性質や関係についての理解の程度、数学的な推論に基づいて考察し表現する力をみるものとした。
- (3) 「関数」では、グラフの特徴についての理解の程度、関数を用いて事象を捉え表現する力、関数と図形を関連付けて考察する力をみるものとした。
- (4) 「データの活用」では、目的に応じて収集した資料を処理し、その資料の傾向を読み取り判断する力、具体的な事柄について起こり得る場合を順序よく整理して正しく数え上げ、不確定な事象の確率を求める力をみるものとした。

2 結果の概要

平均点は16.2点で、昨年度より4.9点下がった。基礎的・基本的事項については一定の力が付いていると思われるが、文字を用いた式に表現したり、文字を用いた式の計算や処理をしたりする力は十分とは言えない。また、関数と図形を関連付けて考察する問題や、図形を数学的な推論に基づいて考察し表現する問題等、思考・判断・表現する力を問う問題に課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
平均点	16.2	21.1	19.0	18.5	21.8

- (2) 正答率の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
数と式	44.3	66.5	54.3	58.3	67.5
図 形	13.3	20.5	13.5	14.5	24.7
関 数	33.1	31.1	38.5	42.6	56.7
データの活用	35.6	39.5	36.8	37.8	37.4

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 目的に応じて等式を自由に変形できるようにさせること。【1(2), (4)など】

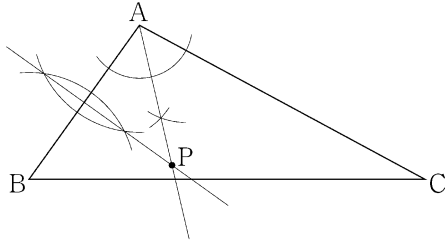
等式の変形を扱った問題の正答率が低い傾向にある。等式の変形は、数学の様々な場面で活用されるので、等式の性質などを用いて段階的に記述させることを通して、目的に応じて等式を自由に変形できるようにしておくことが重要である。

- ☞② 文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できるようにさせること。【2(2), 4(2)】

与えられた条件から数量及び数量の関係を表すことができている解答が多い。表を用いて変化の規則性をみたり、図やグラフを用いて視覚的に把握したりすることを通して、文字を用いた式で数量及び数量の関係を捉え説明できるようにさせることが大切である。

- ☞③ 自分の考えを数学的な表現を用いて説明できるようにさせること。【2(1), 6(1)】

数学的な事実が成り立つ理由を記述する問題や合同な図形の証明問題では、与えられた条件から順に説明することは理解できているものの、それぞれの根拠を明確にすることができている解答が多い。問いに対する自分の考えを、数学的な表現を用いて論理的に説明し伝え合う活動の一層の充実が必要である。

問題	正	答	正答率	誤答率	無答率	
1	(1)	①	5	94.4	5.3	0.3
		②	$\frac{7x+y}{6}$	76.5	22.7	0.8
		③	$\frac{12}{b}$	61.9	36.6	1.5
		④	$-\sqrt{6}$	78.5	16.2	5.3
	(2)	$b = -\frac{8}{5}a + 140$		31.1	59.3	9.6
	(3)	ア, エ		37.4	61.8	0.8
	(4)	(例) $x^2 + 2x - 14 = 0$ $x^2 + 2x = 14$ $x^2 + 2x + 1 = 14 + 1$ $(x+1)^2 = 15$ $x+1 = \pm\sqrt{15}$ $x = -1 \pm\sqrt{15}$		16.2	59.5	22.0
		部分点 2.3				
	(5)	$a = -2$		42.7	48.5	8.8
	(6)	46 度		51.5	43.7	4.8
(7)	60 %		62.7	33.8	3.5	
(8)	(例) 		14.9	65.9	19.2	
	部分点 0					
2	(1)	(例) 右上の数は $x+2$, 左下の数は $x+3$, 右下の数は $x+5$ と表されるので $(x+2)(x+3) - x(x+5)$ $= x^2 + 5x + 6 - (x^2 + 5x)$ $= 6$ したがって, 右上の数と左下の数の積から, 左上の数と右下の数の積を引くと 6 となる。		25.0	43.2	28.3
		部分点 3.5				
	(2)	$3m + 2n - 4$		4.0	54.6	41.4
(3)	18 行目		11.4	66.6	22.0	

(次のページに続く)

問 題	正 答	正答率	誤答率	無答率	
3	(1)	$\frac{7}{36}$	25.0	64.4	10.6
	(2)	$\frac{5}{6}$	19.2	55.8	25.0
4	(1)	$y=6$	22.5	47.2	30.3
	(2)	$y=\frac{2}{3}x+4$	0.0	47.5	52.5
	(3)	$x=2, 9$	2.3	40.9	56.8
5	(1)	$a=\frac{1}{3}$	53.5	36.1	10.4
	(2)	$y=\frac{1}{2}x+9$	32.1	42.1	25.8
	(3)	$-\frac{5}{2}$	0.3	42.4	57.3
6	(1)	<p>【証明】(例)</p> <p>△ABGと△CDHにおいて</p> <p>平行四辺形ABCDの2組の対辺はそれぞれ等しいから</p> <p>AB=CD……………①</p> <p>AB//DCより, 錯角が等しいから</p> <p>∠BAG=∠DCH……………②</p> <p>AD//BCより, 錯角が等しいから</p> <p>∠AEB=∠CBE……………③</p> <p>BE//FDより, 同位角が等しいから</p> <p>∠CBE=∠CFD……………④</p> <p>③, ④より</p> <p>∠AEB=∠CFD……………⑤</p> <p>平行四辺形ABCDの2組の対角はそれぞれ等しいから</p> <p>∠BAD=∠DCB……………⑥</p> <p>また</p> <p>∠ABG=180°-∠AEB-∠BAD</p> <p>∠CDH=180°-∠CFD-∠DCB</p> <p>⑤, ⑥より</p> <p>∠ABG=∠CDH……………⑦</p> <p>①, ②, ⑦より</p> <p>1辺とその両端の角がそれぞれ等しい。</p> <p>したがって △ABG≡△CDH</p>	1.0	33.6	32.6
	(2)	72 倍	1.0	53.5	

※ 正答率等の数値については, 学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した396人分の答案を対象として算出した。

理科

1 出題のねらい

「第1分野」、「第2分野」から均等に出題し、自然の事物・現象についての理解と、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本的な技能、観察・実験などを行い、科学的に探究する力をみることをねらいとした。

- (1) 「第1分野」については、電流がつくる磁界、物質の分解、力の働き及び力の合成・分解、金属イオン及び化学変化と電池などについて問うものとした。
- (2) 「第2分野」については、太陽の様子、生物の観察及び植物の体の共通点と相違点、生物と細胞及び生命を維持する働き、地震の伝わり方と地球内部の働きなどについて問うものとした。

2 結果の概要

平均点は19.9点で、昨年度より2.1点下がった。基礎的・基本的な科学用語ならびに観察・実験の技能の習得については、第2分野では一定の定着が見られるものの、第1分野については課題が残る。また、科学用語や科学的事象を言葉により説明したり、観測・実験結果を図やグラフを用いて表現したりする力や、科学的な探究活動により結論を導く力を伸ばす必要がある。

(1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
平均点	19.9	22.0	23.3	25.7	23.7

(2) 正答率の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
第1分野	30.2	44.8	37.0	49.0	45.4
第2分野	47.9	50.9	61.4	55.3	52.7

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

☞① 題意を的確に理解し、図やグラフで適切に表現できるようにさせること。【2】4, 【5】3など

図やグラフによって解答する問題で、与えられた情報や問題文の指示を正しく理解できていないままに作図をしたと思われる誤答が多い。経験を多く積ませることでグラフや図のかき方の基礎・基本を習得させるとともに、指定された形式に情報を適切に変換し、分かりやすく表現する能力の育成と定着を図りたい。

☞② 物質名と化学式の違い、化学反応式の表し方を確実に身に付けさせること。【4】1, 2, 3

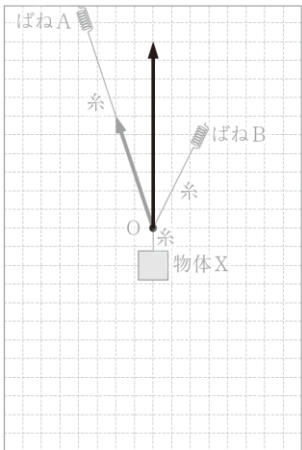
元素記号で解答する問題で物質名を書いたり、物質名で解答する問題で化学式を書いたりした誤答や、イオンが登場する化学反応式を正確に書くことができない例が多く見られる。化学反応式を書く際には、「両辺の原子数が等しい」ことに加え、イオンが登場する化学反応式では「両辺の電荷の総和が等しい」ことにも十分に留意して、正しい化学反応式を書けるようにさせたい。

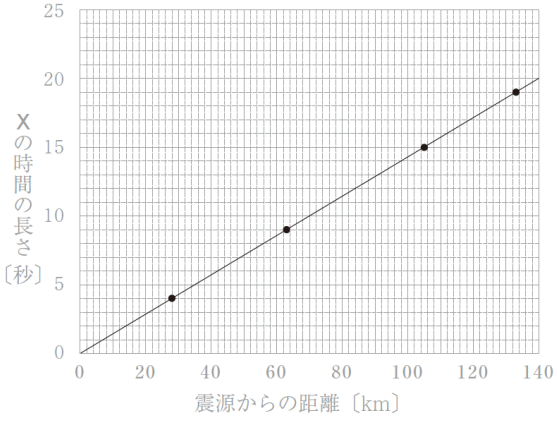
☞③ 科学的な事象を言葉で適切に表現できるようにさせること。【1】3(2), 【5】5など

科学的な事象を言葉で説明する問題において、適切に表現することができていない誤答が目立つ。科学用語を正しく理解し、主語・目的語・述語等を組み合わせて、自分が言いたいことを端的に書く能力を身に付けさせたい。

☞④ 科学的な探究の過程を体験的に習得させること。【3】2(2)

実験には対照実験が必須である。「アミラーゼの働きでデンプンが分解された」という仮説の検証で、対照実験として必要な試料の溶液組成を正しく答えることができていない解答が多い。「対照実験」の重要性を意識しないまま、実験に取り組んでいる中学生が多いことが懸念される。情報の収集、仮説の設定、検証計画の立案・実施、結果の処理及び考察・推論という探究活動の一連の流れを、経験によってしっかりと身に付けられる指導を行う必要がある。

問題		正 答		正答率	誤答率	無答率		
1	1	(1)	イ		32.6	67.1	0.3	
		(2)	ア		32.8	66.9	0.3	
	2	(1)	ウ		57.8	41.9	0.3	
		(2)	(例) まわりに比べて温度が低いから。		78.0	17.7	4.3	
	3	(1)	CO ₂		49.0	46.2	4.8	
		(2)	(例) 生じた液体が試験管 A の加熱部分に流れ込むのを防ぐため。		24.0	74.2	1.8	
	4	(1)	ア		77.2	22.5	0.3	
		(2)	エ		88.8	10.9	0.3	
		(3)	ウ		31.1	68.4	0.5	
2	1	(例) 物体の運動の状態を変化させる。		5.3	83.6	11.1		
	2	力のつり合いの関係		ア と ウ		56.8	42.2	1.0
		作用・反作用の関係		ア と イ				
	3	90 g		50.3	44.9	4.8		
	4			23.2	69.7	7.1		
5	$\frac{\sqrt{2}}{2}$ 倍		0	94.7	5.3			
3	1	(1)	イ, エ		56.8	42.2	1.0	
		(2)	い	器官	50.6	39.6	9.8	
			う	組織	45.5	41.4	13.1	
	2	(1)	ブドウ糖		38.9	51.8	9.3	
		(2)	①	え	10.0	5.6	88.3	6.1
				お	1.0			
				か	0			
②	操作 7	青紫色に変化する。		22.0	69.9	8.1		
	操作 8	変化しない。						

問題	正 答	正答率	誤答率	無答率	
4	1	Mg , Zn , Ag	25.8	69.9	4.3
	2	$Zn \longrightarrow Zn^{2+} + 2e^{-}$	16.7	60.1	23.2
	3	銅	44.9	51.1	4.0
	4	ウ	52.3	46.2	1.5
	5	(例) 2種類の水溶液が簡単には混ざらないが、電流を流すために必要なイオンは少しずつ通過できるようにする役割。	9.1	81.8	9.1
5	1	初期微動継続時間	62.4	36.1	1.5
	2	イ	43.2	56.0	0.8
	3		45.9	40.7	13.4
	4	20 時 49 分 59 秒	35.4	55.3	9.3
	5	(例) 震源の真上の地表の点。	27.3	68.9	3.8

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した396人分の答案を対象として算出した。

英語

1 出題のねらい

英語の特徴やきまりに関する知識及び技能と、「聞くこと」、「読むこと」、「書くこと」の3領域における、情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりする思考力・判断力・表現力等の力をみることをねらいとした。

- (1) 「聞くこと」については、日常的な話題について、必要な情報を聞き取ったり話の概要を捉えたりする力、コミュニケーションの見通しを立てたり相手からの質問に答えたりする力などをみるものとした。
- (2) 「読むこと」については、日常的な話題について、書かれたものから必要な情報を読み取ったり文章の概要を捉えたりする力、社会的な話題について、文章の要点を捉える力などをみるものとした。
- (3) 「書くこと」については、正しい語順で文を構成する力、場面や状況に応じて適切な語句や文を書く力、日常的な話題について自分の考えや気持ちなどを伝えたり、社会的な話題に関して考えたこととその理由を書いたりする力などをみるものとした。

2 結果の概要

平均点は 20.6 点で、昨年度より 3.0 点下がった。聞いたり読んだりしたことの概要や要点を捉えることについては一定の力が認められる。身近なことや社会的なことに対して自分の考えを英語で書いて伝える問題では、自分の考えを伝えようとしているものの、基本的な文法事項等の定着や、場面に応じて適切に表現することについては課題がある。

- (1) 平均点(50点満点)の推移

年 度	R 4	R 3	R 2	H31	H30
平均点	20.6	23.6	24.7	27.1	25.8

- (2) 正答率の推移

年 度		R 4	R 3	R 2	H31	H30
理解の能力	聞くこと	53.8	57.6	67.6	65.4	74.2
	読むこと	44.3	52.6	59.8	60.5	53.7
表現の能力	書くこと	23.6	27.4	22.5	33.3	30.6

3 結果分析に基づく今後の指導のポイント (【 】は該当問題番号)

- ☞① 基本的な文法事項の理解に基づいて適切に表現させること。【4】1, 3 (1)など

文脈や場面から状況を判断し、基本的な文法事項の理解に基づいて、適切に表現する問題の正答率が低い。コミュニケーションを支えるものとして文法を捉えさせるために、言語材料と言語活動を効果的に関連付けて、生徒の文法に対する気付きを促す指導を繰り返し行うことが求められる。やり取りにおいて関連する質問をさせたり、やり取りを継続・発展させたりするような練習を通して、文法事項の定着を図るなどの工夫が必要である。

- ☞② 技能を統合的に適切に活用する力を付けさせること。【1】E, 【4】3 (2)

聞いたり読んだりして把握した内容についての問いに、適切に応じることに課題がある。聞いたことに対して記述する問題では、問いを聞き取ることや、自分の考えなどを適切に表現することができていない解答が多い。また、読んだことについて自分の考えを書く問題においても、話の内容や質問を理解することや、自分の考えを組み立て、読み手に伝わるように表現することができていない解答が多い。技能統合型の言語活動を充実させ、考えや意見を伝え合ったり、様々な話題に触れさせながら既習の表現を運用したりする活動が更に必要である。その際の言語活動においては、適切な語彙や文法を使って表現できる力を身に付けられるような指導が求められる。

問 題		正 答		正答率	誤答率	無答率	
1	A	No. 1	ウ	48.2	51.5	0.3	
		No. 2	ア	15.4	84.3	0.3	
	B	No. 1	ア	75.0	24.7	0.3	
		No. 2	エ	51.7	48.0	0.3	
	C	No. 1	イ	64.9	34.8	0.3	
		No. 2	ウ	72.4	27.3	0.3	
	D	No. 1	ア	40.4	59.3	0.3	
		No. 2	イ	50.2	49.5	0.3	
		No. 3	エ	87.9	11.6	0.5	
		No. 4	エ	73.7	25.8	0.5	
E	(例) I want to go to Okinawa to enjoy swimming and learn about unique nature there.		11.9	30.6	10.9		
部分点		46.6					
2	1	イ	54.0	45.2	0.8		
	2	(1)	ア	41.9	57.8	0.3	
		(2)	ウ	54.0	44.7	1.3	
	3	(1)	イ	50.5	49.0	0.5	
		(2)	エ	33.3	65.9	0.8	
	3	1	エ	43.7	55.3	1.0	
2		ウ	36.1	62.9	1.0		
3		エ	30.8	67.9	1.3		
4		イ	56.8	41.9	1.3		
4	1	(1)	long have you been playing	61.6	35.9	0.5	
		部分点		2.0			
	(2)	was written by a famous writer		43.9	52.1	0.5	
		部分点		3.5			
	2	(1)	return	10.6	66.9	22.5	
		部分点		0			
	(2)	weather		35.6	55.8	8.6	
		部分点		0			
	3	(1)	A	(例) Which volunteer work is the most popular?	7.6	49.0	29.3
			部分点		14.1		
		B	(例) What questions can we ask them?	3.0	50.0	39.4	
			部分点		7.6		
(2)	(例) I think they should. It is because they can do something to help people and make people happy. Also, they can make friends with people outside school.		2.5	21.7	20.2		
	部分点		55.6				

※ 正答率等の数値については、学力検査受検者の中から10人に1人の割合で抽出した396人分の答案を対象として算出した。

高知県教育委員会事務局高等学校課

高知市丸ノ内1-7-52

電話 (088)821-4907

FAX (088)821-4547